

スイス・アルプス 3大名峰と氷河特急の旅

26期・岡田美乃利

8月14日～23日まで阪急交通社・スイス・アルプス3大名峰へ妻と旅しました。

これは私達夫婦が記念に残す簡単な紀行文です。

8月14日は朝8時集合なので関空日航ホテルに前泊です。

ツアー一行は10名、年齢は私達夫婦と同年齢です。ビジネスで12時間の飛行でフランクフルトへ、そこで乗り継いで約1時間でスイスのチューリッヒへ。関空を飛び立って間もなく眼下は青空の下、剣岳の雄々しい姿が。地元富山の山をこうして眺めるのは格別です。そうこうしているうちに多分、モンゴルの大平原でしょうが、モンゴルの飛行時間はかなり長く続きました。

スイスの面積は九州とほぼ同じで人口は808万人（福岡県の人口510万人を除いた規模）

スイスに降り立った街並みの第一印象は、スッキリした街、ビルの高さの制限、ネオンや看板は禁止とのこと。牧草地や山の麓で雑草を見つけようと思っても見当たりません。この有り余る山々の自然の美しさ、溢れんばかりの緑、気分は和みます。残念ながら私の故郷・立山もかなわないと思いました。

スッキリした街

2日目、スイスに降りた立った街並みの第一印象はスッキリした街—ビルの高さの制限、ネオンや看板は禁止です。そして、有り余る山々の自然の美しさ、迫力でした。残念ながら私の故郷立山もかなわないと思いました。

チューリッヒはスイス最大の都市で、標高408m、人口39万人です。チューリッヒの街の教会や大聖堂の見学です。街並みはすっきりしてとても気持ちが良いです。電柱はなく配電線は地下。世界最古（製造から約500年）のカラクリ時計、現在も毎朝、手巻きをしているそうです。

スイスの緯度はサハリンと同程度で日没は夜8時から徐々に暗くなり、日の出は午前8時頃で7時でもまだ暗い夜中です。

息も詰まる滝々

3日目、スイスの首都・ベルン、標高542m、13万人です。ベルン市内観光（バラ公園）等を見学後、貸し切りバスでラウターブルネンへ。ここは標高802m、人口2663人の町です。

アルプスの氷河が溶けた水が岩間の地中を削り、岩間に流れ込んでいる滝もあり、滝の総数はU



ラウターブルネンの滝



トリュンメルバッハの岩間の滝



現役の日本のポスト

字谷の村に 72 もあります。その中の一つ、トリュンメルバッハの滝を、岩間のエレベーターで上まで行き、10 層ある滝壺を下へ歩行で降りながら眺めは最高でした。

岩間を怒涛のように轟音を響かせ、体のすぐ真横を流れ落ちる滝は凄まじい一言です。

3 日目の宿泊はグリンデルワルト・標高 1034m、人口 3,826 人の町です。

アイガー北壁の大パノラマ

4 日目、アルプス 3 大名峰の一つ、ユングフラウを目指し、登山列車での観光です。

ユングフラウヨッホ駅にある展望台 (3,571m) からはアイガー北壁 (3,970m) とアレッチ氷河の大パノラマです。



ユングフラウヨッホ駅
へ向かう登山列車



アイガー北壁



登山列車

展望台で日本人の赤ちゃん連れの夫婦がおられ「どこから来たのです？」と訊ねると「日本人ですが、今、オーストリアに住んでいて、そこから来ました」とのこと。

赤ちゃんが可愛くて「抱っこしても良いですか?」「良いですよ」とのこと。私が抱っこすると赤ちゃん(多分 1 才~2 才位)は泣き出し、赤ちゃんの父親が「本当のパパだよ」と言ったところ、益々、大声で泣き出しました。しかしとても可愛いく温かいプレゼントで心が和みました。



ユングフラウヨッホ展望台で



1833 年建造の欧州最古の木造橋

展望台は真冬並みで吹雪、気温は氷点下 2 度です。ユングフラウはユネスコ世界遺産で富士山と友好都市だそうで展望台には日本の赤い丸型の一昔前の郵便ポストが富士市から寄贈されて、今も

現役でそこに郵便物が投函されると届くということです。

アレッチ氷河はアルプス最大。長さは 23, 6 km、幅は最大で 2 k m、移動は年、180m~200m だそうです。

ここから山登りではなく、日本人で現地在住のガイドの案内で 1 時間 30 分の山下りで、緑一面の牧草地を眺めながらの山下りは爽快そのもの。展望台は真冬並みでしたが、2000mまで下ってのアイガーの眺望は青空の下、格別でした。

ホテルは、スイートルームで広さは約 60 m²、部屋のベランダからはアイガーが眺望できて最高でした。女優のオードリーヘップバーンが定宿にしていたホテルだそうです。

地球にやさしい街づくり

5 日目、グリンデルワルトを専用バスでツェルマット (1, 608m、人口 5, 775 人) へ出発です。ここには 1833 年建造のヨーロッパ最古の木造橋です。

氷河特急でアンデルマット (1,671m) からツェルマットへ。ファーストクラスの氷河特急でゆったりと車窓からの景色を楽しみました。グリーンがとてもすてきでした。

スイスはどこへ行っても草原や牧草地などには雑草が生えていないのが私は特徴だなと思いました。ガイドの方に聞くと低地では地主が手入れをやり、高地は国が維持管理しているそうです。

地球環境にもやさしく、牧場で水が少量の地域は、家庭排水を地下にプールし、浄化してスプリンクラーのように地上に散水し、緑化を維持しているとか。また、路面電車トロリーバスの運行は 2~3 分おきの運行で、車を利用しなくても生活できるようにということ。まるで動く歩道ではと思いました。これには感心です。

圧巻のマッターホルン

6 日目、ツェルマットから、登山列車でゴルナーグラート (3,135m) の展望台へ、そこからのマッターホルン (4,478m) や 4,000m 級山々と大氷河の眺望は圧巻でした。約 1 時間 30 分の山下り、途中の湖面に映る逆さまッターホルン、気分は最高です。



湖面に映るマッターホルン



マッターホルンからの山下り



ヨーロッパの最高峰、モンブランへ

7 日目、ツェルマットから、アルプスの女王といわれるモンブラン (4,810m) を望むシャモニーへ。途中レマン湖でクルーズやスイスワインの試飲も楽しめました。ワインは余り好みではないのですが、スイスのワインは口に合いました。

360 度回転のロープウェイ

8 日目、ロープウェイはシャモニーからの観光客が多いのでイタリアのクールマイヨールへ、そこからロープウェイで 2,000m の標高差を移動です。第 2 のロープウェイでは 15 分間の搭乗中に 360 度 1 回転するロープウェイです。

夕食は自由です。他の人は揃ってイタリア料理へ行きましたが、私ら夫婦は日本人が経営するすき焼き店へ行きました。日本で食するすき焼きと、スイスでのすき焼きとどう違うかという思いです。お店は 40 席ほどありますがほぼ満員。長野県の方の経営です。野菜の品は日本と変わらずしかも盛り沢山、豆腐もあり、牛肉は沢山あって、残しました。

店員も日本人が多く、応対も親切・丁寧で気持ち良かったです。しかも味も格別で気分は最高でした。

他の観光地もそうですが、観光客は赤ちゃんなど子供連れなど老若男女を問わず賑やかです。しかし日本人はバカンスが無いので多分、年金生活者がほとんどでした。

スイスの消費税は日本と同じ 8 %、医療費も教育費も無料です。GDP は 2012 年では OECD 34 カ国の中でスイスは第 3 位、日本は 18 位です。給与は日本のほぼ 2 倍とか。国連幸福度調査では 1 位で日本は 46 位（幸福度は自殺率、購買力、勤務時間、休暇などを考慮して計算）で何が国民の幸せなのかを考えさせられます。因みにバカンスは 6 週間です。上位はほとんどヨーロッパ、北欧で、4 位に米国があるだけです。

帰国へ

9 日目はいよいよ帰国の途につき、乗り継ぎを含め 13 時間余りで 10 日目無事関空に戻ってきました。最近では国際テロが多発しており、飛行機が関空に着陸した時は回りのお客さんから拍手がおきました。

旅行中、移動日の一日を除き、全て真っ青な晴天に恵まれ、改めて旅行中の天候に感謝しています。

喧騒な日本に戻ると溢れんばかりの緑のスイスへもう一度行ってみたい気分になり、日本に着いた途端、スイスの思い出にふけていました。